

第452回鉄鋼流通問題懇談会

2021年1月25日(月) 13:00

Microsoft Teamsによるリモート開催

議 題

△経済産業省新任担当官 ご紹介 連井智哉 金属課長
△ " 堀口 誠 金属課長補佐

1. 配布資料説明(全鉄連)
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪地区概況報告
 - その他の地区の概況
 - (2) 鉄流懇1月例会で発表の各地区業況アンケート結果
 - (3) 総括：阪上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2021年4月 日() 14:30～ 於：

※詳細未定、決まり次第ご連絡いたします

鉄鋼流通問題懇談会 品種別動向について（2021年1月）

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
<p>1. 需給動向(景況感)</p> <p>メタルワゴン</p> <p>(店売り分厚) コロナウイルスの影響は不透明ではあるが、大型案件と比較しても中小案件の停滞感も強くなり、小案件を主とする前夜鉄鋼卸地等の各特約店も出荷量の底迷が継続。各特約店の出荷量をみても20年4~6月期の一番の底迷は脱したが、足元、前年同月比10~20%減という状況。再販価格動向としては、スクラップ高騰に伴う電材材の値上げが先行していた為、形鋼類が先行し角管が先行される模様。但し、需要無き値上となるため、特約店の値上交渉は難航見通し。</p>	<p>2020年11月の薄板3品目は前月比で2万6千6百減の353万5千トンとなった(速報ベース)。5月の446万2千トン以降、6ヶ月連続の減少となっている。内鋼板は、メーカ間の前月比2万9千トン減の163万9千トン、開張板が前月1万7千トンの増の7万8千トン、コイルセンター(組立鋼)1万4千トン減の118万8千トンとなった。在庫量は2万2千トンとなり、5月末の4.07ヶ月から大幅に減少した。在庫はコロナ禍による需要減の影響を受け、複数の高炉でメンテナンスが実施され在庫量が落ちたことに加え、秋の需給、自動車向けが急激に落ちたため更に在庫が減少したと考えられる。ただ、全体需要を見ると、自動車や船舶は回復してきているものの、建物を始めその他業種ではコロナ禍の影響から大幅回復は進んでおらず、業種によりばらつきはあるものの前年度比10~20%程度で推移している。</p>	<p>11月末の全国の中板在庫量は349千トンで前月比6,646トン減。受け入れ量は出荷量を下回った結果、15ヵ月連続の在庫減となった。在庫率は全国平均で前月比9.1ポイント上がり250.1%と、出荷量が改善傾向にあるものの、適正在庫率と比べられる200%を依然大きく上回っている。</p> <p>建物の若手向け回復はあるものの、メインの造船・建築はコロナ影響もあって依然低水準で推移しており、厚板需要回復にはまだかなりの時間がかかりそうである。よって昨年年末からの引付外ミル値上げに對しても、特に切板価格は仕事量確保の為、値上げへの動きは鈍い状態となっている。</p>	<p>棒鋼：首都圏に於いて、マンション需要は低迷しているが、再開発案件や物流倉庫案件等が継続的に出件していることとあり、メーカ間の生戻しは一定水準を確保している。コロナ禍からの世界的な鉄鋼需要の回復から原料鉄スクラップ価格の騰貴が進んでおり、メーカ間は採算の改善が急務な状況となっている。</p> <p>形鋼：11形鋼に關し、2020年度(4~11月)のときわ会ベース全社在庫率は71.3千トンと、前年同月比▲8.3%のレベルで推移している。今春以降、小口建築案件に若干の回復の期待も持てる状況。形鋼同様に原料高騰により、メーカ間一流通共に採算改善が急務な状況。</p>	
<p>2. 需要産業動向</p> <p><建築> 土木>11月の新設住宅着工数は、前年同月比3.7%減の7万7807戸で、17カ月連続の減少。11月としてはこれまでの最低値(09年11月)に次ぐ低水準。持ち家は1.5%増の2万4010戸で、16カ月ぶりに増加。貸家は8.7%減の2万6517戸で27カ月連続の減少。分譲は6.1%減の1万5618戸と、13カ月連続で減少。</p> <p><自動車> 11月の国内自動車販売は、前年同月比2.5%減の74万8026台であった。マイナスは3カ月ぶり。トヨタ自動車とホンダがプラスを伸ばしたが、その他6社は前年水準を下回った。新型コロナウイルス禍に伴う感染不安から、海外市場ではあるが、年末の組立完成による平好利確保の不安定さに起因し先行きは不透明。</p> <p><建機> 11月の新規機械出荷台数は、内需は16.7%増の1902台、外需は15.8%増の1,002台となり、前年同月比14.1%増となった。総計は17,024台となり、14カ月振りの増加となった。総計では16.2%増の1,904台となり、14カ月振りの増加となった。</p> <p><造船> 2020年11月の船舶新造(受注量)は前年同月比16.8%増の78万総トンであった。2カ月ぶりに前年同月を上回った。受注船舶別では、コンテナ船6隻、ばら積船が6隻、タンカーが3隻。</p>	<p>11月の薄板3品目は前月比22万6千6百減(前年同月比24.7%減)であった。主要品種別では、熱延鋼板が9万9千トン(同24.4%減)、冷延鋼板が6万1千トン(同25.8%減)並落めつた。鋼板が6万6千トン(同24.1%減)となっている。11月未の輸入片厚板は前月10万5千トンで、前月比で2万4千トン減となり、10ヶ月連続の減少。</p> <p>世界貿易協会のまとめた世界61カ国・地域の11月の粗鋼生産量は(速報値)は、前月比3.4%減、前年同月比6.6%増の1億5826万トンだった。一方、中国では政府系シンクタンクによると2020年の粗鋼生産量は前年比5.4%増の10億5,000万トンと、初めて10億トンを突破する見込み。積極的な財政政策などによる投資拡大を受け、鋼材消費量は前年比8.5%増の9億7,120万トンに達するとされている。中国の鋼材需要増、及び原料価格高を受けて、中国国内、及びASEANでも市場が高騰している。</p>	<p>11月の輸入鋼管片厚板は前月比26千トン減の39千トン。中板からの入荷はゼロで、韓国からの入荷が22千トン減、ロシアからの入荷が3千トン減となった。11月の輸入粗鋼量は前月比20千トン増の196千トン。中国向けが11千トン増、韓国向けが14千トン減、増加先として東南アジアではミャンマー向け12千トン、シンガポール向け8千トン、中東ではアラブ首長国連邦向け9千トン、南米向けではチリ向け1千トン減とそれぞれ減少となった。</p> <p>韓国ミルは造船メーカへの受注減少と上平期の新型コロナ拡散による需要停滞で、厚板販売量は減少。2020年(1~12月)は国内販売量629万トン(前年比約12%減)、輸出量253万トン(同約10%増)、全体で厚板販売量882万トン(同6.4%増)となった。</p> <p>中国ミルは内陸部・西部開拓の公共投資など国内需要が低調で、昨年米豆は強気の値上げを実現。中国以外では厚板需要は依然低迷中。各国厚板ミルの輸出価格は依然タイト、HRCの急激な価格高騰の影響を受けて、相対的に安値の厚板は供給が引き続き乏しく、鉄原は利幅の大きいHRCへ優先的に配分されている。</p>	<p>形鋼：不動産経済研究所による首都圏マンション販売戸数に關し、緊急事態宣言中の営業自粛影響もあり、2020年は24,400戸見込(前年比▲21.9%)のレベルに達し、1973年からのデブータで初めて25,000戸を下回る水準。2021年は住宅ローンの増加などにより郊外での伸びが期待される。</p> <p>形鋼：建築に關し、2020年度(4~10月)の換算数量(推定)は214万(前年同月比▲14.5%)となり、通期でも2010年度(418万)。(推定)以来の低水準となる見通し。2021年度に關し、小口建築案件は今春頃、大型建築案件は夏場以降から若干の回復の期待も持てる状況。</p>	
<p>3. 輸出入動向</p> <p><2020年11月度鋼管輸出量> 継目無鋼管：7,058トン(前月比▲47.9%) 溶接鋼管：12,436トン(前月比▲55.9%) <2020年11月度鋼管輸入量> 継目無鋼管：1,580トン(前月比+13.1%) 溶接鋼管：10,654トン(前月比▲16.2%)</p>	<p>11月の薄板3品目は前月比22万6千6百減(前年同月比24.7%減)であった。主要品種別では、熱延鋼板が9万9千トン(同24.4%減)、冷延鋼板が6万1千トン(同25.8%減)並落めつた。鋼板が6万6千トン(同24.1%減)となっている。11月未の輸入片厚板は前月10万5千トンで、前月比で2万4千トン減となり、10ヶ月連続の減少。</p>	<p>11月の輸入鋼管片厚板は前月比26千トン減の39千トン。中板からの入荷はゼロで、韓国からの入荷が22千トン減、ロシアからの入荷が3千トン減となった。11月の輸入粗鋼量は前月比20千トン増の196千トン。中国向けが11千トン増、韓国向けが14千トン減、増加先として東南アジアではミャンマー向け12千トン、シンガポール向け8千トン、中東ではアラブ首長国連邦向け9千トン、南米向けではチリ向け1千トン減とそれぞれ減少となった。</p>	<p>棒鋼：2020年度11月の形鋼輸出量は28万6千7百トンと前年同月比▲15.6%、輸入量は2.9千トンと前年同月比▲50.3%となった。</p> <p>形鋼：2020年度11月の形鋼輸出量は49.2千トンと前年同月比5.5%、輸入量は7.7千トンと前年同月比▲24.3%となった。</p>	
<p>4. 海外市場動向</p> <p><鋼管> 油価下落・コロナ影響を受け、対面業界であるエネルギー会社の活動は停滞していたが、ここに来て原油価格(WTI)も50ドル付近まで上昇、徐々に回復の兆しはできているが、依然コロナ前の水準からは低値推移している。</p> <p><ラインハイト> 油価下落・コロナ影響を受け、車道みプロジェクトの延期・中止が頻発している。需要面での落ち込み激しく、海外メーカも日立といったオアターパスクログ無く、厳しい状況が継続しているが、若干大型案件に連携の兆しは見えてきている。</p>	<p>11月の薄板3品目は前月比22万6千6百減(前年同月比24.7%減)であった。主要品種別では、熱延鋼板が9万9千トン(同24.4%減)、冷延鋼板が6万1千トン(同25.8%減)並落めつた。鋼板が6万6千トン(同24.1%減)となっている。11月未の輸入片厚板は前月10万5千トンで、前月比で2万4千トン減となり、10ヶ月連続の減少。</p>	<p>中国：2020年10月上旬の鋼材輸出量は前月比▲24.3%減、引き続き減少傾向で推移している。本邦輸出大国である中国の「輸入増・輸出減」の逆転したトレンドは、旺盛な内需を象徴するとともに、周辺各国の鋼材価格への影響も強い。また、鉄鋼価格を押し上げる原料価格の高止まりも、引き続き同国の鋼材価格の上昇をけん引すると思われる。</p> <p>ASEAN：各国ミルは中国ミルに合わせる形で値上げをオファー価格を前月比で、</p> <p>北米：中国鋼材の急激な値上げ、HRCの急激な価格高騰の影響を受けて、相対的に安値の厚板は供給が引き続き乏しく、鉄原は利幅の大きいHRCへ優先的に配分されている。</p>	<p>棒鋼：2020年度11月の形鋼輸出量は28万6千7百トンと前年同月比▲15.6%、輸入量は2.9千トンと前年同月比▲50.3%となった。</p> <p>形鋼：2020年度11月の形鋼輸出量は49.2千トンと前年同月比5.5%、輸入量は7.7千トンと前年同月比▲24.3%となった。</p>	

鉄鋼流通問題懇談会（2021年1月）

発表者 発表項目	メーカーク JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>(国内)・12月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数(DI)が大企業・製造業で▲10と前回9月調査から+17ポイントとなり、3期連続で改善した。先行きについては▲8と前回調査から+2ポイントの小幅改善。自動車関連での改善鈍化が見込まれている。</p> <p>20年度の設備投資計画は大企業では前年度比▲1.2%と前回から▲2.6%悪化した。製造業での下方修正が下押しした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計部門については11月の小売業販売額は前年同月比+0.2%と2ヶ月連続の増加、12月の乗用車販売も3ヶ月連続の増加となった。 ・製造部門では11月の自動車生産が前年同月比では2ヶ月ぶりの減少、機械受注は2ヶ月ぶりの増加となった。 ・建築部門では11月の全建築物着工床面積が15ヶ月連続の前年同月比減となった。 <p>(海外)・各国の各種対策により多くの分野で経済活動は回復してきたが、主要国でロックダウンが実施されるなど、感染者の拡大は抑制できておらず、引き続き新型コロナウイルスは世界経済の懸念要因となっている。中国は他国に先駆けて経済は正常化。内需の持ち直しに加え、輸出も大きく改善するなど、21年は高い成長率が見込まれる。米国は追加の経済対策と大規模金融緩和による経済の下支えが期待される。また、新型コロナウイルスのワクチン接種開始による感染抑制が期待されるが、現状は感染拡大が続いており、依然として懸念要因。ASEAN諸国は世界的な経済活動再開を受け、輸出は改善するも個人消費は活動制限の度合いにより改善にばらつきがみられる。</p> <p><国内鉄鋼需給></p> <p>(生産)・11月の粗鋼生産は726万t(前年同月比▲6%)で9ヶ月連続の減少となった。</p> <p>(出荷)・11月の普通鋼国内向け出荷は336万トン(前年同月比▲9%)で14ヶ月連続の減少。輸出向け出荷も158万トン(同▲8%)と7ヶ月連続の減少。</p> <p>(在庫)・11月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は505万トン(前月比+4.3万トン)、3ヶ月ぶりの増加。</p> <p>・11月末の薄板3品在庫は354万トン(同▲2万トン)と6ヶ月連続の減少。</p> <p>・11月末の厚板シャヤー在庫は35万トン(同▲0.6万トン)と3ヶ月ぶりの減少。</p>
2. 需要産業動向	<p>[建築]・11月の新設住宅着工戸数は7.1万戸(前年同月比▲3.7%)で17ヶ月連続の減少。持家は増加も分譲・貸家が減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非住宅着工床面積は337万㎡(同▲10.1%)で2ヶ月連続の減少。公益事業で増も、鉱工業、商業・サービス等で減。 <p>[自動車]・12月の国内販売(輸入車除く)は34.3万台(前年同月比+10.1%)で3ヶ月連続のプラス。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月の完成車輸出は39.5万台(同▲4.4%)で2ヶ月ぶりのマイナス。北米で増加、欧州・アジア等で減少した。 ・11月の四輪生産(速報)は78.0万台(同▲3%)で2ヶ月ぶりのマイナス。 <p>[造船]・12月の新造船受注量は88万GT(前年同月比▲4.2%)の受注、12月末の手持工事量は1,455万GT(同▲27%)。</p>
3. 輸出入動向	<p>[輸出]・11月の全鉄鋼輸出は244万トン(前年同月比▲10.4%)で7ヶ月連続の減少。</p> <p>[輸入]・11月の鋼材輸入(普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計)は38万トン(前年同月比▲23.9%)で11ヶ月連続の減少。</p> <p>韓国は2ヶ月ぶり、中国は11ヶ月連続、台湾は2ヶ月連続の減少。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の世界粗鋼生産は1億5,826万トン(前年同月比+6.6%)と4ヶ月連続の増加。中国の他、欧・印・伯等で増加。 ・12月の中国粗鋼生産は9,125万トン(同+7.7%)。20年暦年では10億5,300万t(同+5.2%)と初の10億t超え。また、4年連続で過去最高更新。 ・12月の中国鋼材輸出は485万トン(同+3.5%)、20暦年は5,367万t(前年比▲16.5%)。